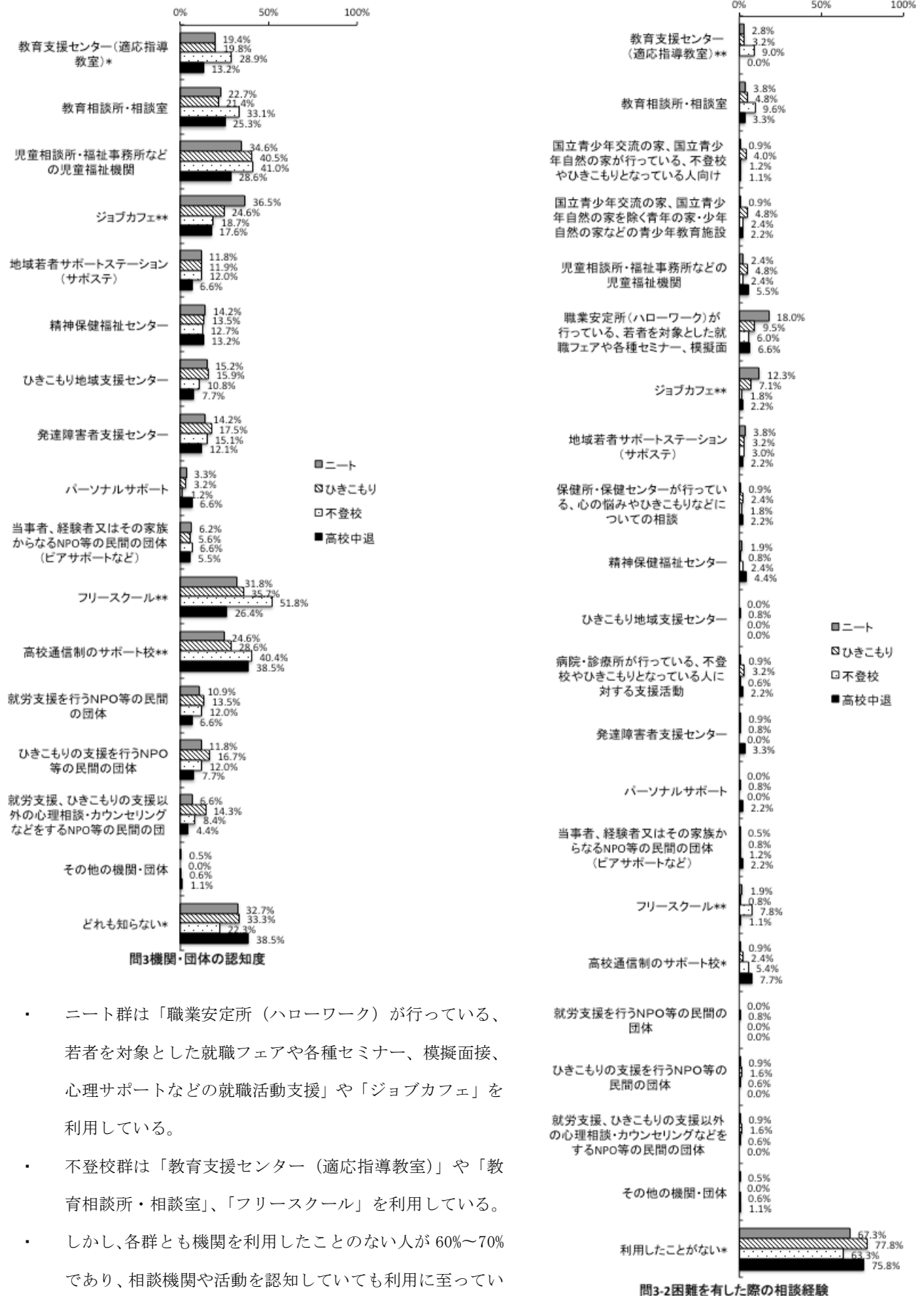


2.3. 機関の認知度と利用経験



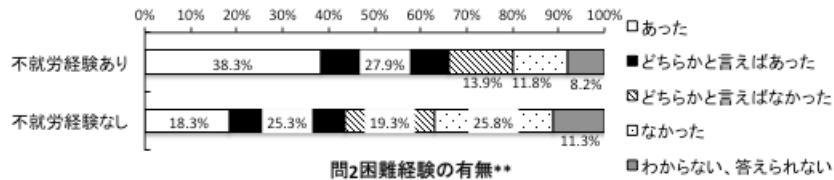
- ・ ニート群は「職業安定所（ハローワーク）が行っている、若者を対象とした就職フェアや各種セミナー、模擬面接、心理サポートなどの就職活動支援」や「ジョブカフェ」を利用している。
- ・ 不登校群は「教育支援センター（適応指導教室）」や「教育相談所・相談室」、「フリースクール」を利用している。
- ・ しかし、各群とも機関を利用したことがない人が60%~70%であり、相談機関や活動を認知していても利用に至っていないと見られる。

3. 不労経験あり群と不労経験なし群の分析

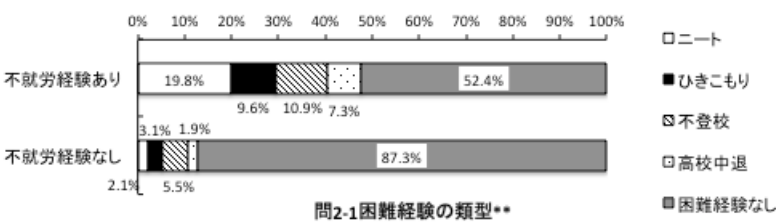
3.1. 各群の抽出方法と人数

問1 ライフステージごとの経験で「1ヶ月以上働いていなかった経験がある」を選択した否かで分類
 →不労経験あり群 n=1461、不労経験なし群 n=1758

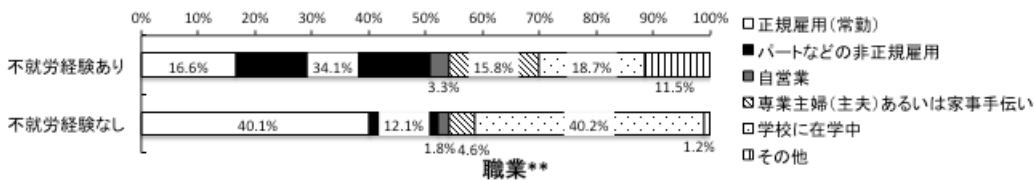
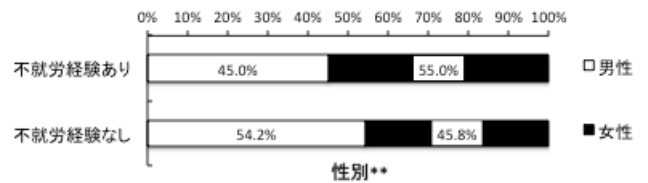
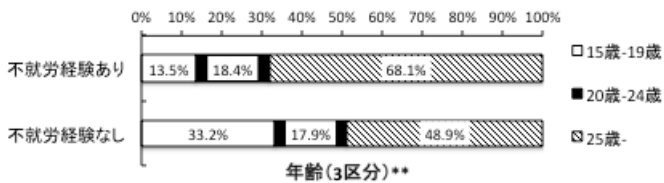
3.2. 不労経験と困難経験の関連



- ・ 不労経験あり群は、困難経験が「あった」が多い。
- ・ 不労経験なし群は、大半が困難経験なし群に該当する。



3.3. 年齢・性別・職業

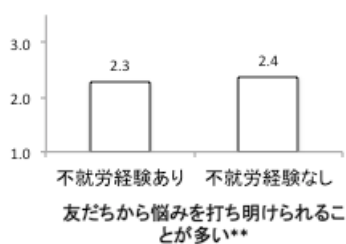


- ・ 不労経験あり群で、「25歳以上」「女性」が多い。
- ・ 不労経験あり群は「パートなどの非正規雇用」が多く、不労経験なし群は「正規雇用(常勤)」や「学校に在学中」が多い。

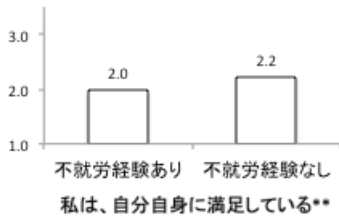
3.4. ライフステージごとの経験

別ページに記載

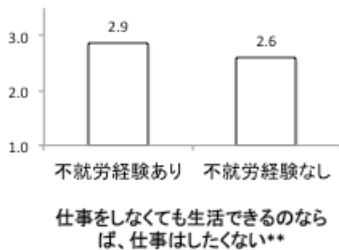
3.5. 意識状態



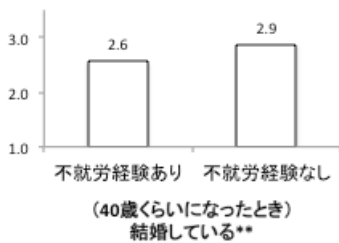
- ・ 「嫌いな人、苦手な人ともうまくつきあえる」や「自分自身の考えをはっきり相手に伝えることができる」でも類似した結果が見られた。



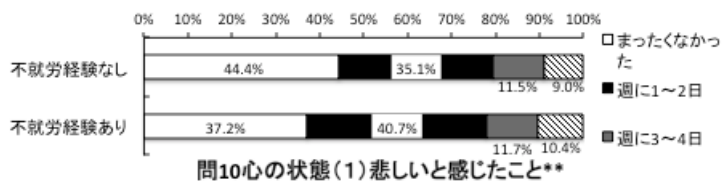
- ・「自分には長所があると感じている」「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」でも類似した結果が見られた。



- ・「定職に就かない方が自由な生き方ができる」でも類似した結果が見られた。



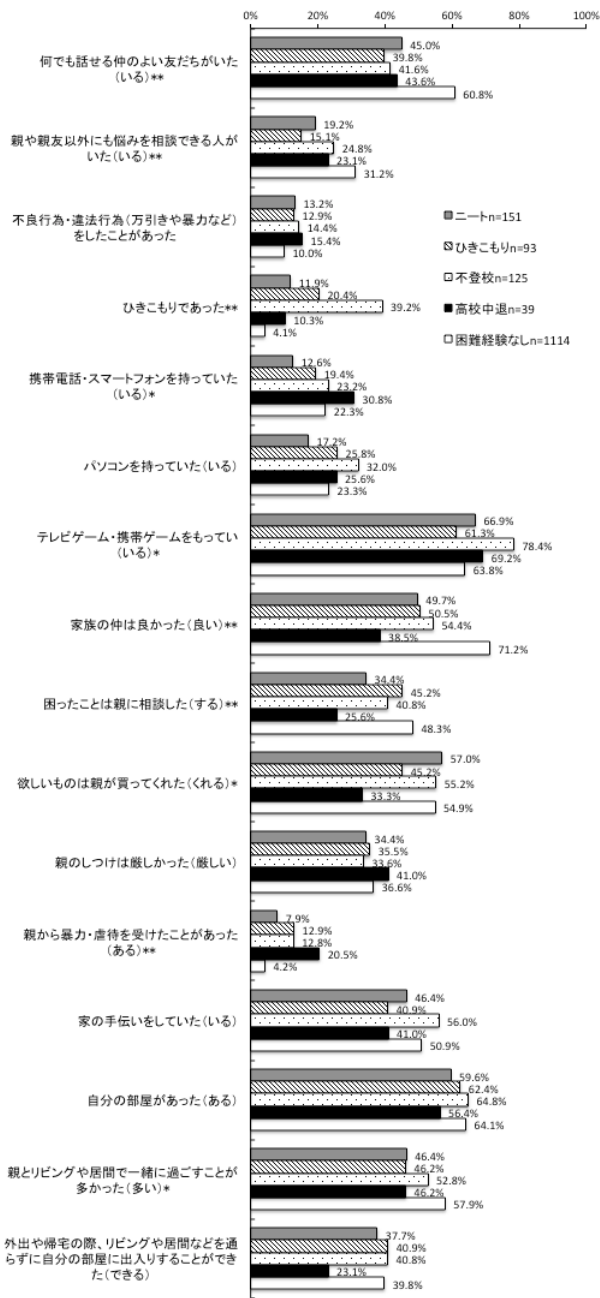
- ・「子どもを育てている」や「幸せになっている」でも類似した結果が見られた。



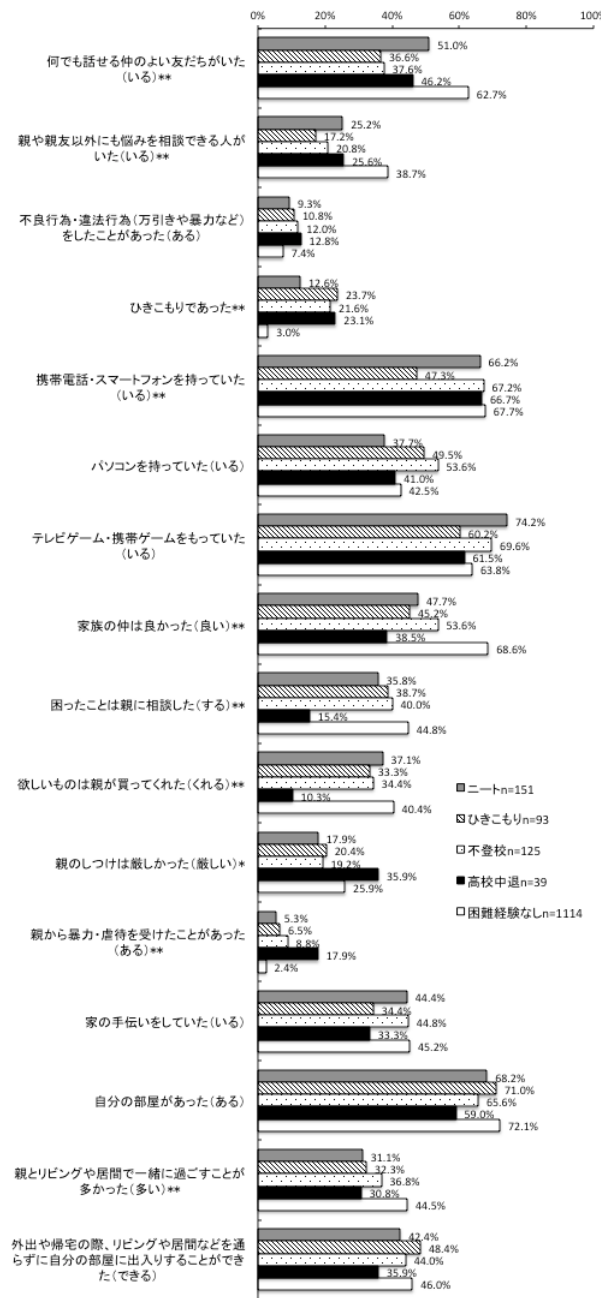
- ・「何事も憂うつだと感じたこと」でも類似した結果が見られた。

4. 考察

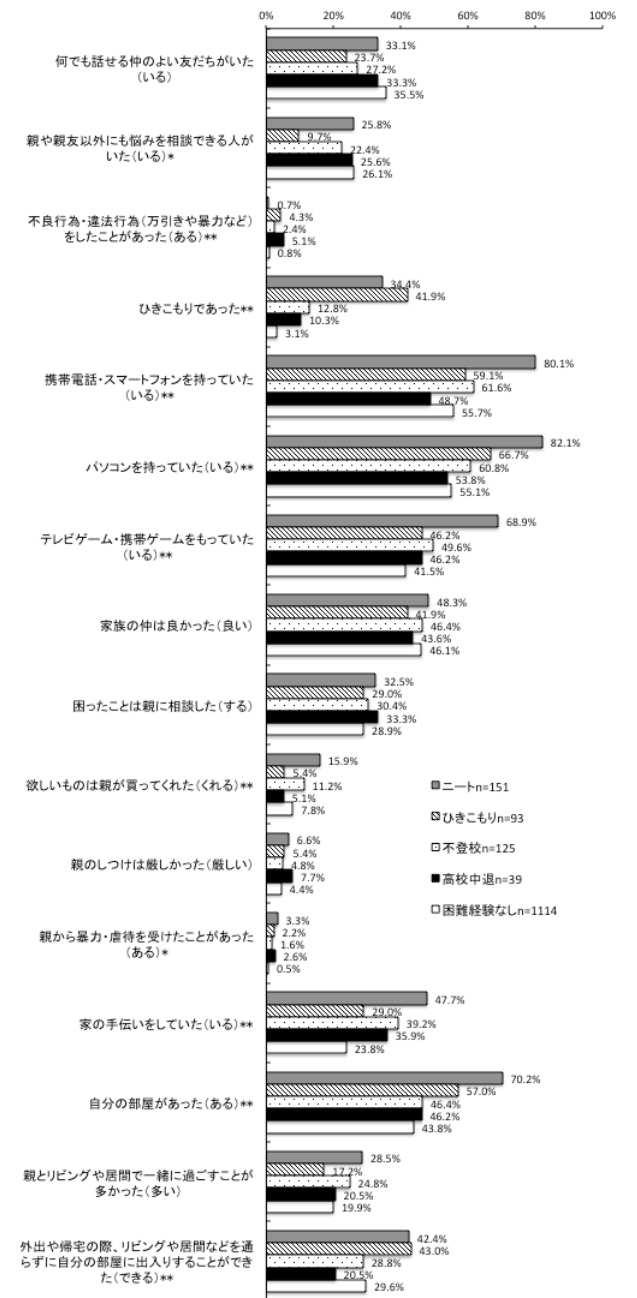
- ・ 困難経験 4 群（ニート群、ひきこもり群、不登校群、高校中退群）は困難経験なし群に比べて、自信がなく精神的な健康度が低い。自分の将来についてもネガティブに考えている。
- ・ 困難経験 4 群は、困難なし群に比べて家族、友人、職場の人との関係が良好ではない。
- ・ 困難経験と不就業経験は重複していることが多い。
- ・ 4 群の中でも不登校群は相談経験や支援を受けた経験があるが、ニート群、ひきこもり群、高校中退群は何も支援を受けていないことが多い。
- ・ インターネットでの支援情報の周知が有効である。特に、学校を離れたニート群、ひきこもり群、高校中退群にアプローチするためには、ネットの利用が重要であると考えられる。
- ・ 全体に、政策に子どもや若者の意見を取り入れて欲しいという希望があり、政治参加・社会参加を拒否しているわけではない。



【中学校時代】自分自身について、家族について、居住環境について



【高校時代】自分自身について、持ち物について、家族について、居住環境について



【高校や大学を卒業後】自分自身について、持ち物について、家族について、居住環境について